

タイトル：「現在」を活かす力

東京都庁 東京都東部学校経営支援センター管理課 佐藤春恵（高 63 期）

出身大学：お茶の水女子大学 文教育学部 人間社会科学科 教育科学コース

■ 自己紹介

はじめまして。事務局の方からの執筆依頼に二つ返事で引き受けたものの、今まで執筆されてきた錚々たる先輩方に名を連ねることにはかなり恐縮しています。社会人5年目であるひよっこの私が、先輩方のようにみなさんの心に響く言葉をお伝えするのは難しいかもしれません。でも、まだまだ未熟な私だからこそ伝えられることを、精一杯考えました。「これなら自分も頑張れるかも…。」とあっていただけたら幸いです。

■ 現職場について

よく「都庁に勤めている」というと「新宿のツインタワーで働いているの？」と聞かれますが、都職員全員が新宿で働いている訳ではありません。私が現在所属している教育庁には、総務部や都立学校教育部などの部が存在し、それらは新宿の本庁にあります。翻って、学校経営支援センターや都立学校の経営企画室の職員は本庁ではなく、各センター、都立学校に勤務しています。立高の経営企画室で働いている人も都庁の職員です。

私は入都1年目から3年目までは都立特別支援学校の経営企画室で勤務していました。現在は東部学校経営支援センター管理課で、都立学校で必要な物品調達を担当しています。メインの仕事は入札や契約事務なので、条例や規則に基づき誤りのない事務を粛々と進めていくことが一番重要です。したがって、これ自体は面白みのある仕事とは言えません。

一方、学校経営支援センターという名前のおり、学校担当者のフォローをすることもセンター職員の役割の一つです。学校で勤務していたときに困っていたことや、「これがあらかじめ分かっていたら楽なのに…。」と感じた経験を生かして、学校の支援に当たることに大きなやりがいを感じています。

■ 高校時代

高校時代を振り返ってみると、一番頑張っていたことは勉強だったと思います。大学で教育について学びたい気持ちがモチベーションとなっていました。私は所謂「ゆとり世代」です。今でも「脱ゆとり」などと失敗作扱いをされていますが、私が高校生の頃から批判はひどいものでした。「大人の都合で導入された教育なのに、なぜ我々が悪く言われているんだろう。」「別に私たちはゆとっている訳ではなく、ゆとられているだけなのに…。」と憤りがありました。また、同級生にさりげなく「教育と洗脳の違いは何？」と聞かれた際、答えに窮してしまいました。「教育は大人の思う“あるべき姿”に導くことなのか。」という疑問を解決したく、苦手な文系科目から逃げずに大学受験を乗り切りました。

もちろん、頑張っていたのは勉強だけではありません。部活は応援団と民俗音楽研究部

を兼部しており、特に応援団での経験は今の私に大きな影響を与えています。応援団は体力・気力・意志の限界との闘いでした。また応援団は、応援する相手がいない限り存在意義がありません。「自分ではなく誰かのために頑張ること」の喜びを体感することができました。

くわえて、部活だけではなく演コンなどの行事にも参加し、放課後にはアルバイトにも勤しんでいました。それでも勉強を頑張ったと言えるのは、「勉強だけの生活では勉強を頑張れない」性格だからです。自分が好きだと思ふこと、やりたいことを続けるという行為は、実は簡単なことではありません。「面倒だな」と思ふ気持ちは、「好きじゃないから」という理由に起因するとも限りません。もちろん、好きなことだけを突き詰めることができる人もいます。ただ、そういう人と比べて「自分はダメだな」と落ち込むのではなく、好きなことを続ける方法を模索した高校時代があったからこそ、今も向学心を持って日々生活できているのだと思っています。

今思えば、「教育」「公共性」「バランス」。自分が大事にしているこの3つの原点は高校生の頃に形作られたように感じます。

■ 大学時代

東日本大震災が起こった日。それは大学合格発表の翌日でした。長らく努力した結果が報われ、プレッシャーから解放されたと思った矢先に起こった未曾有の災害。毎日テレビから流れてくる映像はショッキングなものばかりなのに、被災した人々を助けることができない自分の無力感を覚えました。私はお医者さんのように、怪我した人を救うことはできない。大工さんのように、壊れた家を直すこともできない。教育学部に進学する自分にできることは「日本の教育をより良くして、“周りを助けられる人”を育てることに貢献すること」だと考えました。今でも辛くなったときはこの時の決意を思い出します。

そうして、自分の中にある「教育に関わる仕事がしたい」「公共性の高い仕事がしたい」という気持ちから、自然と出てきた就職先が「東京都」でした。もちろん、教員や国家公務員（文部科学省）なども教育に携わることができます。しかし、今ある現場の中で教育を行っていく教員よりも、現場の教育力を底上げする教育行政に関わりたいと感じていました。また前述のとおり、私はやりたいことだけを突き詰めるよりは、バランス感覚を持って進めていく方が、駆動力を得られます。激務と名高い国家公務員よりは、地方公務員として働きたいと思った結果、今の就職先がありました（今の職場も繁忙期は夜遅くまで残ることもあります…）。

■ みなさんにお伝えしたいこと。

長々と自分語りをしてきましたが、私は高校時代に形作られた原点を、大学時代に深掘したことで、納得のいく就職をすることができました。もちろん、高校時代・大学時代にそんなことを考えながら過ごしていた訳ではありません。あとから振り返ったときに、点

と点とを結びつけることができるのだと思います。だからこそ、みなさんには「点を打つ行動力」と「点と点とを結びつける素養」を身に付けてほしいです。

好きなこと、興味のあることに存分に時間を割けるのは学生の特権だと思います。私は現在保育士資格を取ろうと勉強に励んでいますが、ちょっと仕事が忙しくなっただけでまるで勉強の時間がとれません。ぜひ高校生であるみなさんには、好きなことや興味のあることに注力してほしいなと思います。

ただ、振り返ったときに点と点とを結びつけるには教養や素養が必要だと思います。優秀なみなさんに私から「勉強してください」と言うのは憚られますが…。勉強がどう役に立つかは勉強した人にしか分かりません。勉強すればするほど「勉強しておいてよかった」と思う機会が増えるはずですよ。

少し先を楽しみに、ぜひ種をたくさん蒔いて大切に育てて行ってほしいと思います。頑張ってください！